

総合運動公園の2期・3期事業の廃止を！ 競艇場施設全面建替えは必要性があるのか！

大崎議員

- (1) 総合運動公園について
①平成13年から始めたこの事業は延伸を重ね、現在1期工事においても十分に満たない進捗状況である。2期・3期工事については、はつきりと廃止することを求める。その上で、2期以降については用途地域指定を速やかに解除するべきと考えるがどうか？
- (2) 競艇事業について
①全面建替え計画が発表

されたが、70億円の建設費に多くの市民が財政面で心配をされ、反対される方もいる。また、平成18年度から19年度にかけて、エスカレーターなど大規模な改修工事をしたばかりでの全面建替えでは改修の意味がないのではないか？

②業界全体の低迷や回復の見込みがない不況の中、競艇事業の役割は終えたのではないか。

市長

- (1) ①市長就任前から進められていた事業であるが、危機的な財政状況の中、事業自体をやめたという思いもあったが、既に用地買収も行っていることなどから1期工事だけはやらないといけないということを進めてきた。しかし、1期工事だけでは事業採択の基準を満たさず、これまで投入された国庫補助金や地方債の約13億円を一括返還しなければならぬことから、1期工事だけでやめるのは制度上困難な状

競艇事業管理者

- (2) ①築40

市長

- (1) ②2期、3期工事に関わる地権者の方々とっては深刻である。早く結論を出し、計画変更などで有効利用ができれば、早期に何らかの手を打たなければならぬと思っている。

市長

- (2) ②国の財政状況が悪化し、地方交付税が削減されている中、厳しい状態にあった競艇を再建させて収益を上げ、市の財政に寄与してきた。また、今後も見通しがある。撤退してはならない。

図書館構想の具体的取り組みは 子宮頸がん予防ワクチン接種に助成を

伊川議員

- (1) 図書館について
①県立図書館の誘致場所はどこを提案するのか。
②市立図書館を含む文化施設のあり方について考える検討委員会は、新年度に計画しているか。
③図書館のあり方はそれぞれまちで違う。市立図書館の建設計画を進めるにあたっては、図書活動をしている人たちをはじめ、広く市民の意見を取り入れる取り組みを望む。
- (2) 子宮頸がんワクチンの助

成について
乳がんに次いで発症率の高い子宮頸がんは、20〜30歳代の若年層では、がんの中では最も多く発症している。これは、ウイルスの感染が原因で、ワクチンで予防できる唯一のがんである。ワクチン接種で発生を7割減らすことができることから、市によっては接種費用の全額を助成するところが出てきた。接種率を高めるために一部でも助成できないか。

市長

- (1) ①平成17年から誘致を要望してきた中で、市役所の近くの体育館跡地なども構想の一つに入っていたが、当時の金子知事が二度、視察に來られ、人が集まる中心市街地が望ましいのではないかとという意見をいただいたこともあり、今のところは、市民会館の駐車場になつている警察署跡地の一帯を考えている。
- 市長 (1) ②平成24年に迎える市制施行70周年を目指

市長

- (1) ③図書館というのは、行政がつくる一般的な公共施設と違い、図書、読書に対して関心をお持ちの幅広い市民のお声があり、その声を反映させてこそその図書館だと思う。

福祉保健部長

(2) 効果については指摘のとおりであり、ワクチン接種によって子宮頸がんの抑制の効果が増すということを理解はしているが、現在のところワクチン接種に対して助成をすることは考えていない。

その他の質問事項

- ・さくらを配したまちづくり
- ・町内公民館のバリアフリー化
- ・子育て支援の充実
- ・職員の人材育成
- ・社会保障カードの実証実験
- ・総合運動公園
- ・がん検診の無料クーポン

